令和２年度第１回八戸市総合教育会議 会議録

開催日時　令和３年２月４日(木)　午前９時

場　　所　小中野小学校

構 成 員	八戸市長	小　林　　眞
	教育委員会教育長	伊　藤　　博　章
	教育委員会委員	大　庭　　文　武
	教育委員会委員	簗　瀬　　眞知雄
	教育委員会委員	油　川　　育　子
	教育委員会委員	小瀬川　　喜　井

案　件　　○１人１台端末を活用した授業視察

○端末活用体験

○意見交換

開　会

○１人１台端末を活用した授業視察

（小中野小学校 鈴木校長より、資料に基づき授業の概要説明）

（鈴木校長引率により、市長、教育長及び委員 授業視察）

① ２年２組：音声入力によるインターネット検索（国語）
② ５年１組：端末を活用した「考え」の共有（算数）
③ ３年２組：ローマ字タイピングアプリの利用（国語）

（午前10時５分　休憩）

（午前10時11分　再開）

○端末活用体験

（端末を活用した模擬授業体験：講師 総合教育センター 石井主任指導主事）

（午前11時00分　休憩）

（午前11時７分　再開）

○意見交換

（小林 眞 市長）

本日は令和２年度第１回目の会議となります。昨年度の総合教育会議では、西白山台小学校を訪問し、初めて子どもたちが活動している、生の教育現場を見せていただき、特別支援教育や新聞活用事業、タブレット機器の活用について意見交換を行いました。今回は小中野小学校をお借りしての開催となりますが、お忙しい中、御対応いただいた鈴木校長を始め、御協力いただいた先生方や、御理解を賜りました保護者の皆様に感謝いたします。

それでは早速、意見交換を進めさせていただきます。まず、先ほど皆さんとともに端末を活用した授業を体験させていただきましたので、少し感想を述べたいと思います。私自身も以前は役所勤めをしていましたので、かなり早い段階から仕事でパソコンを使っておりました。当

時は職場にパソコンの有効性について言っても、なかなか予算を付けてくれず買うことができませんでした。あの頃は「ＮＥＣ98」というパソコンがあって、インターネットなんて全然ない時代でしたけれど、みんなでお金を集めて、秋葉原でそれを買ってきて仕事に使ったという経緯があります。昔は、職員の名前のゴム印を押したりという庶務的な仕事もやっていましたので、例えば、残業時間が何時間あるかを集計するために、手書きで書いたり、電卓を打ったりして、単価がいくらだから、計いくらになるといった計算を紙でやっていたのです。けど、「一太郎」とか、今もあると思いますけど「Lotus1-2-3」などを使うと、あっという間にできちゃうんですよね。そういう経験もしてきましたし、地方自治体の決算統計のプログラムを書いたりするのもありましたね。プログラムといっても簡単なものですけど、パソコンを有効に使えば、事務処理を効率的に進めることができることも体験してきました。

今回、こういう形で学校にパソコンを導入しましたが、非常に先生方や子どもたちが授業の中で活用していて本当にすばらしいなと感じ、感動したところです。自分が役所で使っているパソコンよりもはるかに操作性が良くて、動作も早いなと感じました。委員の皆様方からも感想をお聞かせ願えればと思います。簗瀬委員いかがですか。

（簗瀬 眞知雄 委員）

先ほど石井先生からも、道具のようにどんどん使ってほしいということを話されていましたので、安心して使うことができました。あくまで道具の一つとなるかと思いますが、楽しみながらこの端末の使い方を体験することができ、子どもたちも同じような気持ちで、楽しみながら授業を受けていることが想像できましたし、とても嬉しくなりました。ただ一方で、道具を使えるからといって優秀な人間であるとならないよう、注意が必要であると感じました。

（小林 眞 市長）

大庭委員どうぞ。

（大庭 文武 委員）

私はこういう機械が不慣れなもので、先ほどの端末活用体験の中で、カレーのレシピ作りの課題をやりましたが、ほとんど隣の市長さんが画像などを貼り付けてくれました。私はどのボタンを押せばいいか聞きながら進める感じでした。

授業視察の感想についても、少しお話ししたいと思います。２年生の授業では音声入力を使ったインターネット検索をしていましたが、検索結果が出てこない場合の対応について、非常に興味を持って見させてもらいました。３年生はローマ字入力を行っていましたし、５年生の算数では、図形のグループ分けをやっていました。特に５年生の授業では、あのグループ分けをどういうふうに収めていくのかなと見ていましたら、先生がいろんな児童の考えをピックアップしながら、うまく誘導して考えさせていたと思います。最初、私は一方通行な授業になるのではないかと心配していたのですが、こういう使い方をすれば先生と児童との双方向からの授業になるということを実感しました。ちょっと長くなりましたけれども、以上です。

（小林 眞 市長）
ありがとうございます。あのグループ分けの場面ですが、私はまた別の答えがあると思っていまして、子どもたちからはその答えが出ていませんでしたので、発表したいと思います。私はですね、六面体とそうじゃない図形で分けることができると思いましたが、いかがでしょうか。いろいろな分け方をすることができるということを学べますし、一つだけが正解じゃないということを学ぶことができて、そういう教育って面白いなと思いました。次に油川委員からお願いします。

（油川 育子 委員）
本日授業を拝見した感想を述べさせていただきたいと思います。児童の皆さんは、この端末を慣れた手つきで操作しておりました。先ほど石井先生もおっしゃっておりましたが、通常授業に必要な鉛筆やノート、教科書と同じように学習に欠かすことのできない必要なアイテムというふうにして考えて、児童の皆さんは物怖じすることなく積極的に学習生活に取り入れるという姿勢を拝見し、とても頼もしく思いました。この裏には、小林市長の深い御理解と伊藤教育長はじめとする教育委員会の皆様、それから現場の先生の皆様の御努力によるものと大変感銘を受けました。以上です。

（小林 眞 市長）
ありがとうございます。小瀬川委員。

（小瀬川 喜井 委員）
私は、子どもたちが時間を計りながらゲームのように学習ドリルをやっていたり、担任の先生とタイピングの対戦をしていたり、非常に楽しそうに学んでいる姿が心に残りました。たまたま私の前にいらした児童は１分間に78文字ほど入力しており、打つスピードの速さにもびっくりしましたが、正確性も９割ということで、非常に子どもたちの順応力というのはすごいものだなと思いました。
５年生の算数の授業では、図形のグループ分けをする際に、ただ真ん中に黒い線を入れるだけではなくて、色を変えて丸で囲んでみたり、いろんな付箋を貼ったり、子どもたちの個性が出ていました。また、その中で大型ディスプレイを使って友達との考えを共有しながら学ぶという点もすばらしいと思いました。

（小林 眞 市長）
油川委員も小瀬川委員もそれぞれ自分でやってみた感想はいかがですか。

（油川 育子 委員）
楽しく学ぶことができたと思います。

（小瀬川 喜井 委員）
家のパソコンと違いますと、新しいものへの順応性が悪くて、おろおろしてしまいました。

（小林 眞 市長）
タイピングということですと、以前に八戸商業高校の女子生徒がタイピングの速さと正確性を競うワープロ競技大会で全国優勝したということで、報告に来られたことがありましたね。
それでは、校長先生からもお話を伺いたいと思います。今まさに、こういう形で１人１台端末の整備が終わりました。授業での活用については、それぞれの学校で違いもあるのかなと思いますが、先生方や保護者の皆さんの声とか、あるいは学校での使われ方についての情報があったら、お聞きしたいと思います。

（鈴木　稔 校長）
以前から本校ではＩＣＴの活用に力を入れており、よく調べ学習なんかには従来のタブレット端末などを活用していました。しかし、２人もしくはグループ３人ぐらいで１台を使っていましたので、時間が掛かるということが一番の問題でした。個人ごとに行う調べ学習などでは、どうしても子どもたちの待ち時間が生じてしまいますので、子どもの意欲も途中で途切れるということもありました。今回、一人一人にパソコンが配布され、子どもたちは自分の進度に合わせて使うことができますし、興味、関心のあることを積極的に調べたりと、意欲的に取り組むことができるようになりましたので、非常にありがたいことだと思っております。先生方にとっては、45分間の授業設計がしやすくなったことが一番の効果かと思います。
また、子どもたちの使い方については、まだまだこれからな部分ではありますが、ゲーム感覚的な教材であったり、競争しながら行うドリル的なものもあったりしますし、１年生でもできるお絵描きなどもあります。簡単に操作に慣れていくことができると思いますので、子どもたちの興味も高まっているかと思います。
家庭への持ち帰り学習については、まだ５年生しか実施したことがありませんが、すごいと思ったのは、休みの日にパソコンを持ち帰らせた際に、パソコンを使って友達同士で情報交換をしていたということがありました。子どもたちが自分たちでどんどん使い方を試していく中で、チャットのような機能を使って、今日の宿題の何だっけといった確認をしていたのです。子どもたちは本当にすぐ操作を覚えていきますね。
その時のアンケートでは、「子どもたちの操作するスピードにびっくりした」、「子どもたちはこんなことまでできるのか」といった声がありましたので、さらに子どもたちの力を実らせていきたいと考えています。今月の参観日で１人１台端末を保護者に紹介して、その後、段階的に家庭に持ち帰らせる予定でいました。あとは、やはりインターネット環境がない家庭からは、使い勝手がよく分からない、家庭でどうすればいいのかという意見もいただいています。それを受けて、学校でも使い方を教えながら、また、家庭で使うことのできない子どもたちは、学校に集まって使ったりできないかといった点についても今後考えていければと思っていました。
先生の中には、なかなかパソコンに不慣れな人もいます。私も一緒にやっていく中で苦労する部分、心配する部分が多々あります。授業をする上では、どうしても指導力の個人差があります

ので、学校の中でも研修を通して、教員のスキル向上がこれからの課題かなと思っていました。また、中学校との連携という部分も課題になってくると思います。小学校では、ここまでできる、中学校でここまでやれるようになるというレベルに合わせて、小学校では何をやる、そして、どうつなげていくかといった情報交換も必要だと思っております。

最後になりますけれども、今後はデジタル教科書も導入が進んでいくと思います。このパソコンもそうですが、大型ディスプレイもそうですし、まずは授業の中のツールとして有効活用していきたいと考えています。今でも実物投影機やプロジェクタなども全学級に入ってはいるのですが、今回の物の方が画面も綺麗ですし、格段に活用方法がたくさんありますので、そういったものを使って、さらに授業を充実させていきたいと思います。

（小林 眞 市長）

授業の中での意見のやり取りがやりやすくなる一方で、マイナス面の懸念として、何かいじめにつながるような、そういう傷付けるような言葉が書かれたりという心配はどうですか。子どもたちの授業を見ていると、全くそういう心配はないように思いますが。

（鈴木　稔 校長）

やはり保護者の方からもそのような意見は出されました。しかし、これから使っていく中では、しっかりと学校側でも情報モラルに関わって教えていくということは必要であります。これまでの別なパソコンでは、ある程度規制をかけることができましたが、今のパソコンでは、動画サイトにも自由に入ることができます。ミート機能を使うと、子どもたち同士でチャット的に話し合うこともできます。正しい使い方、悪い使い方というわけではないんですが、人を傷付けない、悪用しないというところは、今まで以上に情報モラルの育成が大切であると思います。

（小林 眞 市長）

一般的な理論の中では、そのような行為はネットの中でもう横行していますので、教育の中でそういうことについて教えてもらうということは非常に重要だと思いますね。ありがとうございました。校長先生から、教育の中での活用方法等について御説明、御報告いただきました。先ほどのお話の中でも出ておりますけども、改めて、今後の展開について期待されることなど、委員の皆さんからもお伺いしたいと思います。簗瀬委員。

（簗瀬 眞知雄 委員）

私が授業の中で一番感じたのは、道具に使われない人間ということが大事だなと思っています。あくまでも便利な道具であり、みんなの考えを共有できる物としては、すごく有効だと思います。５年生の授業では、パソコンを使いっぱなしにするのではなくて、子どもたちが前に出て、自分の生の声でその考えを発表して、先生と生のやり取りをしていました。そういう場面は、非常に大事だと思って見ていました。古い考えかもしれませんが、人と人がそこに存在して、初めて血の通った授業、教育が成り立つと思っていますし、情報モラルの課題と同時に大事にしていきたいなと感じたところです。

もう一つになりますが、基本となる日本語の大切さについてです。私もスマホで音声入力したときに間違った変換になる場合があります。２年生の国語でも音声入力をしていましたが、はっきりと、正しい発音で、しっかりとした発声が大切です。これは音読、朗読といった昔からの基本をしっかりやるっていうことが大事だと感じましたので、そういった点も含めて考えていければと思います。パソコンを道具として正しく使うためにも、光だけではなくて影の部分もしっかりやる必要があると思います。

（小林 眞 市長）

ありがとうございます。私も本当に同じ感想を持って、もっと一方通行で、この画面だけ見てやり取りしているのかなと思ったら、全然そうではないので、非常に使い方の可能性を感じたところです。ありがとうございました。大庭委員お願いします。

（大庭 文武 委員）

大きく二つに分けて、平常時のケースと緊急時を含んだ家庭に持ち帰ってのケースと二つに分けてお話しします。平常時の授業展開については、これからかなり研修が進んでいくと思います。人と人との対面、パソコンを使う場合の上手なバランス、これがこれから工夫されていくと思いますので、さらにいい効果も出てくるだろうと感じました。

もう一つの緊急時を含んだ家庭への持ち帰りですが、先ほどもありましたけども、情報モラルの問題については、やはり学校教育の中で扱わなければならない課題の一つだと思います。

（小林 眞 市長）

ありがとうございます。油川委員。

（油川 育子 委員）

今日の授業を拝見しまして、人前で話すことが苦手な児童生徒の皆さんも、このような経験を通してコミュニケーション力やプレゼン力ということが育成されるのではないかなと思いました。新学習指導要領で大切にされている「主体的・対話的で深い学びの実現」において、このネットワークと端末というのは、重要な道具になるのではないかなと思いました。インターネットの調べ学習がインプットで、発表する場がアウトプットになるかと思いますが、これがフルに行われることによって、「主体的・対話的で深い学びの実現」というものにつなげられるのではないかなと思いました。

最後に、ＳＤＧｓを実現させるためのＷｅｂサイト「Ｅｄｕ Ｔｏｗｎ ＳＤＧｓ」というサイトが開設されておりますので、その取組にも大いに期待しているところです。

（小林 眞 市長）

ありがとうございました。小瀬川委員さん、お願いします。

（小瀬川 喜井 委員）

２年生の授業でありましたけれども、この地方で普段見ることのできない植物や動物をすぐその場で調べて画像を見たり、５年生の算数の授業であった、先生手作りの紙の資料とクロームブックを活用した学習であったり、この端末を加えることによって授業の幅がすごく広がっていて、子どもたちの深い学びにつながっていると思いました。いろいろな活用の仕方があると思いますが、音楽や体育の授業の中でも、自分の技能的な映像を保存することによって後から見返すことができる、そういった活用の仕方もできるのかなと思いました。

（小林 眞 市長）

委員の皆様から参考になる御意見をいただきました。ネットの中の情報というのは、やはり玉石混交な部分もあるので、子どもたちが正しい情報を選べるようリテラシーが重要であると思っています。それでは最後に、まとめという形で教育長から発言いただきたいと思います。先ほど校長先生からも話が出ていましたが、家庭におけるネットワークの環境整備についても何か考えがあれば話していただいて結構です。

（伊藤 博章 教育長）

今日はありがとうございました。特に鈴木校長、それから小中野小学校の先生方に大変お世話になりました。私自身も低学年の授業もそうですし、中学年、高学年の授業も初めて見させてもらいました。子どもたちは私が想像していたよりもずっとこのパソコンに馴染んでおり、普通の対面授業とはまた違った、生き生きとした子どもたちの表情を見ることができました。子どもたちのやる気と言いますか、学びの面白さみたいなのを感じられる授業が多かったなと思います。

特に２年生の授業の中で上手だったのが、音声検索で「センリョウ」という花を調べるときです。これが一発でなかなか出てきませんでしたけれども、その前の「梅の花」を調べるときに、先生が「何という言葉で調べればいいか分かりますか」みたいに言ったら、子どもたちは「梅」、それから「植物」というキーワードを出しましたよね。授業というのは、対面授業でも今回のような授業でもそうなのですが、子どもは間違うというところを大事にしてあげる必要があります。ただ、知識を教えるだけだったら、こういう授業は要らないわけですけれども、自分でどういう検索のキーワードがいいかを考えて入れることによって、求めていたものが出てきたり、そうでなかったりしますので。

それから３年生のタイピングの授業では、もうゲーム感覚でやっていましたよね。もう３年生のかなりの子どもたちが、自分たちですごいスピードで打っていました。それぞれの子が積極的に参加している姿を見て、これまでの授業だけではできない、新たなパソコンを取り入れた授業の良さを見ることができました。

５年生の高学年の授業も大変面白い授業でありました。答えがただ正解だから正しいというわけではなくて、いろいろな子どもたちの考え方を引き出して、みんながそれを認めてあげていました。途中で退席してしまいましたが、最後に先生がどういうふうにまとめていくのだろうという興味があり、もう少し見たい気持ちでしたね。とてもすごい授業をされていると思いました。

少し本題に帰りますと、この１人１台端末と無線ＬＡＮの整備は、全額が国の補助ということ

ではありませんので、市からも相当なお金を出していただきました。11月末までに市内１万6,000余名の子どもたちに１人１台端末の配備が終わりました。それと合わせて、この部屋にも無線ＬＡＮが設置してありますけれども、高速大容量な通信ネットワークも整備され、教育長として本当に良かったなと思いましたし、心底ありがたい気持ちであります。

しかし、いい道具も環境も整備されましたが、大事なのは今後の活用であると思います。本当の意味でのスタートはこれからであり、今後の授業や学習活動にどう生かせるかを考えていく必要があるなと、私自身は強く感じました。率直に申し上げますと、先生方にとっても負担感は増すだろうと思います。そういう意味では、あまり成果だけを性急に求めるのではなくて、今日の授業のように、一歩一歩着実に実践を通して、子どもたちも教員もＩＣＴ環境に慣れていくことが当座の目標だろうと思います。

市長からも家庭のネットワーク環境のお話が出ましたけれども、各家庭のネットワーク環境は学校のようにはいきません。学校では体育館でもつながりますし、どこに行ってもネット環境があるのですが、家庭においてはちょっと格差があります。９月時点の調査では、90％の家庭にはネット環境があるという結果でしたが、その後どうなっているか、教育委員会ではさらに詳細な調査を行っている最中であります。２月末頃には調査結果が出ると思いますので、どのぐらいの家庭においてネット環境があるのか、もう少しきちんと精査をして、今後の対応を検討してまいりたいと思います。

また、先生方については、昨年の夏から校内研修等を開いて、操作方法や授業における指導方法について理解を深めております。このような授業を体験しますと、私自身もこのパソコンを使ってみたい、使おうという気持ちになるのですが、学校現場の先生方もそういう気持ちを持って、授業の中で、そして教育活動の中で、このパソコンを大いに使っていただきたいと思っています。教育長として大事にしたいのは、机の中に保管しておくだけのパソコンにはしたくないということです。今よりも楽しい学習になるためのパソコンでありますので、教科書オンリーの授業と比べて、映像を使ったり、知らなかった情報を調べられるといった教育効果もありますので、子どもたちが「何か面白いな」、「分かるということはこんなに面白いんだ」と思ってもらえるような、そういう楽しい学習、そういうパソコンになるよう心掛けたいと思います。

また、簗瀬委員からもありましたが、パソコンの使い方が上手だから、下手だからといったことよりも、本当にこのパソコンが子どもたちのためになっているかどうかを検証して、そしてフィードバックしながら、学習具として活用していくということが大事だろうと思います。これまで以上にパソコンが有効であることは間違いないでしょうけれども、このコロナ禍の中で、オンライン授業を行っている大学もありますが、様々な課題が出てきていますよね。つまり、対面授業の良さということも大切な事実だと思うのですね。だからこそ、この対面授業とパソコンを使った、これまでにない楽しい学びというものを身に付けていくということも大事な視点だろうと考えています。

さらに情報モラルの観点では、リスクは当然あるわけです。このパソコンを使って動画サイトを見ることは結構ですが、そうではないサイトにもつながるわけです。ただ、あまりリスクを恐れすぎて、机に保管だけするというのは本意ではありませんので、そういう情報モラルの教育も充実しながら、子どもたちに大いに持ち帰りしてもらって活用してほしいなと願っているところ

です。

本当に活用されるのは、これからが大事であります。現時点では、小中野小学校は他の学校よりも少し進んでいる感じは受けていますので、来年度は、市内66校において今日見た小中野小学校のような授業が展開されていれば120点だと思います。まずは私にすれば、ここからこれを生かしていきたい、生かすように教育委員会としても学校をサポートしていきたいと思っております。それから、先ほどこの大型ディスプレイも紹介がありましたけれども、本当に綺麗で、クラスの後ろからもはっきり見えます。パソコン、無線ＬＡＮ、そして大型ディスプレイを整備していただきましたので、道具はほぼ揃いました。あとは今後の活用方法について、私どもも力を入れていきたいと思っています。

（小林 眞 市長）

ありがとうございます。今、教育長も話されたように、教育というのは将来いい学校に入るためのものではなくて、やはり全人格的な広い視野の豊かな心を持った人間を作ることが目標だと私なりに思っています。そういう面では、今回のＧＩＧＡスクール構想については、やや懸念はありました。知識の詰め込み教育にならないか、押しつける教育が加速するのではないか心配していたのですが、実際の教育現場を見させていただいて、全くそういうことは払拭されました。すごく工夫していて、まさに人間的なつながりを強める形でツールとして使われていたので、大変良かったと思っています。

また、ある意味で親和性のあるツールであるというお話も聞きました。引きこもり、不登校の子どもたちといった、いわゆる特別支援の子どもたちの学習支援にも役立つということでしたので、これも大変良かったと思っています。

八戸市では全国的にもかなり早い形で導入することができました。既に様々な取組も進められていますので、先進的な取組や効果的な使い方などがあれば、是非この八戸の教育の中から情報発信していっていただきたいと思ったところです。

本日は鈴木校長先生はじめ、御協力いただいた小中野小学校の皆様に感謝申し上げます。有意義な総合教育会議になりました。

（午前11時45分　閉会）